

若手を巡る諸問題

大隅典子(東北大学)

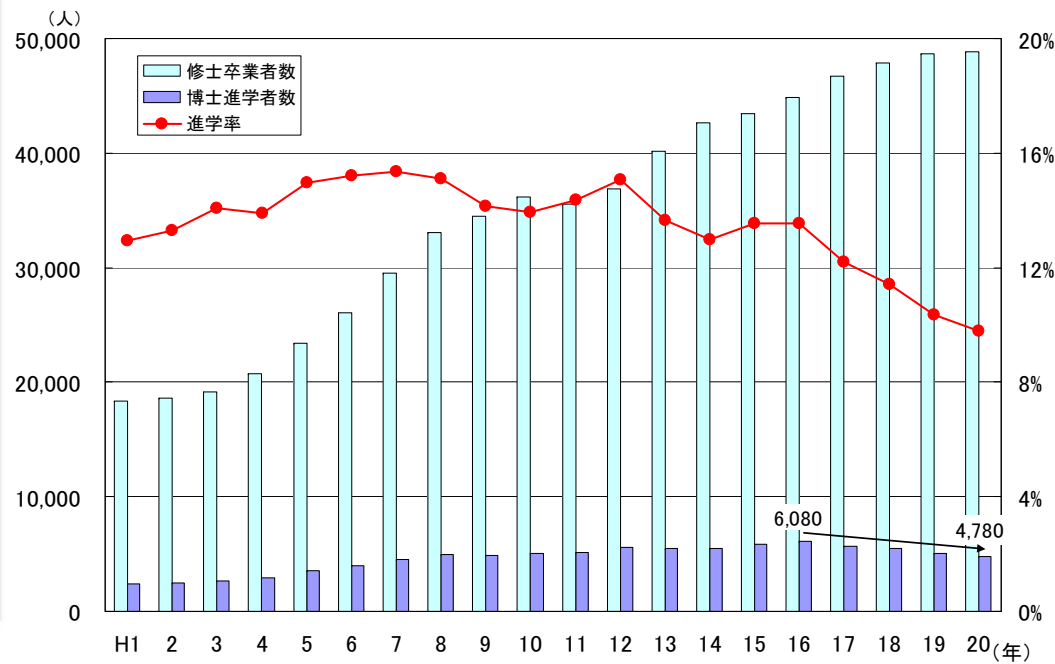
野尻美保子 (KEK)

修士、博士課程研究者のニーズはどこにあるか。

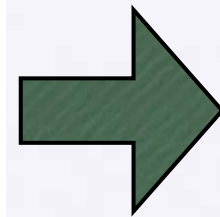
- 大学、企業における研究開発
- 政策：科学リテラシーをもった人材による政策決定、制度設計 → 大学、地方、国における人材の登用。
- 社会：論理的な判断、独創性をもった人材の供給。 → 大学院教育の充実
- 教育：人材の再生 → 科学コミュニケーション人材の育成

大学院重点化

修士課程修了者の博士課程進学者数・進学率
(自然科学系)



出典: 文部科学省「学校基本調査」より内閣府作成



PD問題
博士難民

- PD 問題は大学院重点化以降「個人の問題から「社会の問題」になった。
- 解決すべき意識の分断：
 - シニア層：博士をとるかどうかは本人の選択
 - PD 層：アカデミックポストも企業ポストもない。「だれも面倒を見てくれなかった」感
- これはどこから始まったか。

現在の大学周辺の人材の流れ

- 企業就職1/3、大学就職 + PD 1/3、そして1/3 は消息不明。(次ページ参照)
- 定員の大幅拡大による質の低下→大学院生の能力に対する不信感による企業採用の頭打ち→倍率の低下→更なる質の低下
- 教員の多忙化(学生の科学研究費申請、大学事務の縮小、中期目標、中期計画)→教育にさける時間が大幅に減少。しかも学生は増えている。数値目標(1%効率化、PD 1万人計画。。。)の弊害。
- これに企業の新規採用の手控えが追い打ちをかける(バブル崩壊とその後の低成長。さらにリーマンショック)
- 事業仕分けのインパクト GCOE 削減による RA の減少。東大では多くの学部生が真剣に海外行きを検討。